

## 受賞者の横顔



床ヌブリさん

床ヌブリさん

〔木彫〕

# 郷土芸術賞に輝く

<中>

床さんが追いつけるテーマはユ  
ーカラだ。民族の遺産であり、誇  
りでもあるこの神々と人間の詩に  
「ユカラだ。民族の遺産であり、誇  
りでもあるこの神々と人間の詩に  
山本ヌブリさん(故人)を知った  
三十七年、二十五歳のとき、は

## 精力的な制作活動

### 欧州旅行で著しい進境

触れ、激しくつき動かされたのは  
十九歳のとき  
木彫は十四  
歳のころから  
はじめている  
山本多助さん  
や旭川の川上  
実さんらが先  
生だった。民  
一カラではない。自分の詩であり

山本さんは床さんといういった。  
「アイヌにはユーカーラというすば  
らしいものがある。それを彫刻で  
品の展示した。ここに描かれた神  
々の世界は、新鮮な感動を呼び起  
こした。それらいろいろの精力的な制  
作、発表活動は目を見はるものが  
ある。四年前には美術研修のた  
め、ヨーロッパを旅した。帰国し  
てから制作に変化が出てきた。な

じめて東京・銀座の松屋で個展を  
開いた。草月流の勅使河原和風氏  
の協力により、華道展の立場に作  
品を展示した。ここに描かれた神  
々の世界は、新鮮な感動を呼び起  
こした。それらいろいろの精力的な制  
作、発表活動は目を見はるものが  
ある。四年前には美術研修のた  
め、ヨーロッパを旅した。帰国し  
てから制作に変化が出てきた。な

このことばで目を開かせられた  
という。単なる民芸品からの脱皮  
ある。四年前には美術研修のた  
め、ヨーロッパを旅した。帰国し  
てから制作に変化が出てきた。な

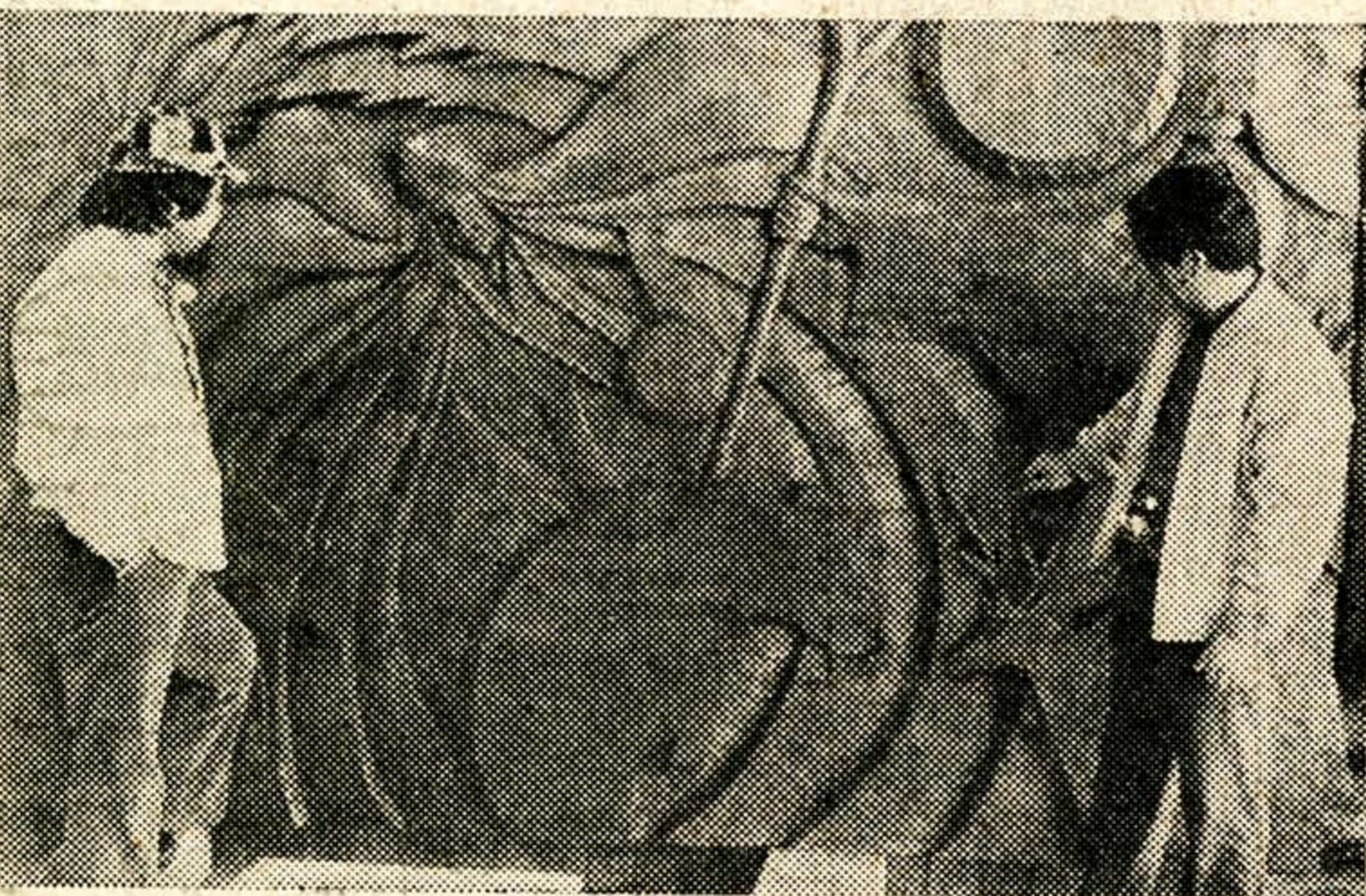
生だった。民  
一カラではない。自分の詩であり  
てから制作に変化が出てきた。な

によりも、ひとつの作品にじっくり  
りと取り組む姿勢を身につけたこ  
とは、海外旅行の大きな成果だ。  
分たちが体を使って謳い上げるユ

一カラは、彫刻と相通するものが  
ある。体の動きを知ることには、ノ  
ミを手にするときに生きてくる。  
丹葉節郎さんから、多くの人に受  
賞を祝福されながら床さんは「こ  
れからも、神々と人間の詩を掘り  
続けていきたい」と語っている。

◇ ◇ ◇

昭和十二年三月、釧路市千代ノ  
浦で生まれる。「ヌブリ」の名  
は、木彫の師である山本ヌブリさ  
んからももらったもの。南中(現弥  
生中)を卒業後、山本多助、川上  
実さんらについて木彫を勉強。昭  
和三十七年、東京・銀座の松屋で  
第一回個展、その後、釧路市公民  
館、白糠町公民館、札幌・大丸藤  
井ギャラリーで個展八回。代表作  
に、釧路市公民館前の「若い日  
本」の歌碑、木彫レリーフ「神々  
の詩」(縦三枚、横七枚)などが  
ある。ユネスコ協会阿寒湖畔支部  
長。三十七歳。



今は東京の「盤銀」に飾られている木彫レリーフ、これも代表作の一つだ